

「ペトロの手紙 二」

2019年07月02日

ペトロの手紙 二 1章1節～7節 イエス・キリストの僕であり、使徒であるシメオン・ペトロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を受けた人たちに。神とわたしたちの主イエスを知ることによって、恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

主イエスは、御自分の持つ神の力によって、命と信心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄光と力ある業とで召し出してくださった方を認識させることによるのです。この栄光と力ある業とによって、わたしたちは尊くすばらしい約束を与えられています。それは、あなたがたがこれらによって、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずからせていただくようになるためです。だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

Ⅱペトロ書は、使徒ペトロが自らの死を前にして、キリスト教徒全体に書き送った手紙で、遺訓という形を取っている。「著者」は、「イエス・キリストの僕であり、使徒であるシメオン・ペトロ」と、「シメオン」という言葉を入れて、ペトロ自身が書いたものであると印象付けようとしている。しかし、ペトロが本書のようなギリシア語を書いたとは思えないし、3章2節に「あなたがたの使徒たちが伝えた」という言葉から、第一世代は過去の人々になっていることが示されているので、ペトロの名を借りて、権威づけた偽名文書であることは間違いない。Ⅰペトロ書が流布していることや、パウロ書簡の集成の存在を知っていることなどから、おそらく、紀元2世紀の初め頃に書かれた書簡であろう。

宛先は、「わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を受けた人たちに」と書かれ、他の手紙のように宛先を特定しないで、キリスト教徒全体に書き送った極めて珍しい書簡である。「わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義」の箇所は「神」と「救い主」の両者のように訳されているが、「神」、「救い主」を同格にして、「わたしたちの神であり、救い主イエス・キリストの義」と訳するのが正しいと思われる。イエス・キリストを神と同一視する信仰になっていたのである。

祝福の言葉は、「神とわたしたちの主イエスによって、恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように」と書かれている。

「著者」は、「主イエスは、御自分の持つ神の力によって、命と信心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄光と力ある業とで召し出してくださった方を認識させることによるのです」と語る。主イエスの栄光と力ある業とによって、尊くすばらしい約束を与えられ、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずからせていただくようになるためである。「だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい」と勧める。本書はユダの手紙を下書きにしている。そして、書かれた目的は、キリスト教と異なる教えを語る「偽教師」を退け、彼らに惑わされることのないように警告することであった。偽教師とは、終末時のキリストの来臨と裁きを信じないと主張する立場である。彼らの過ちを正し、来臨が確実であることを論証している。